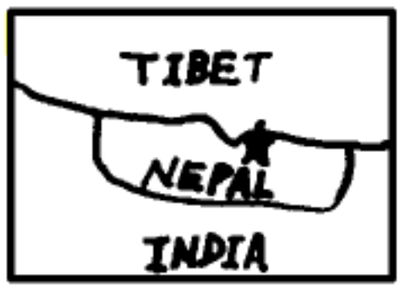
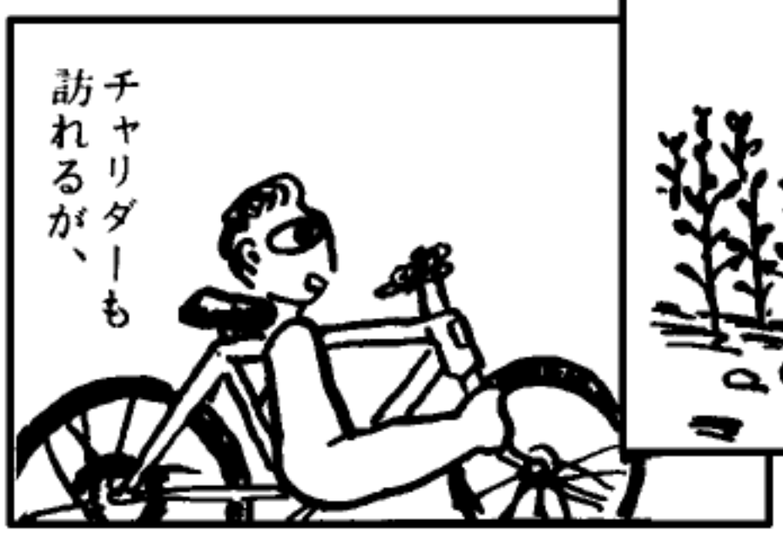
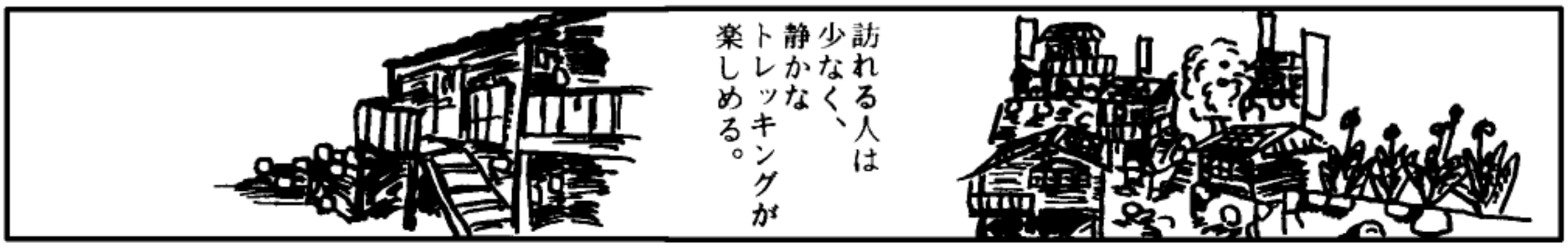


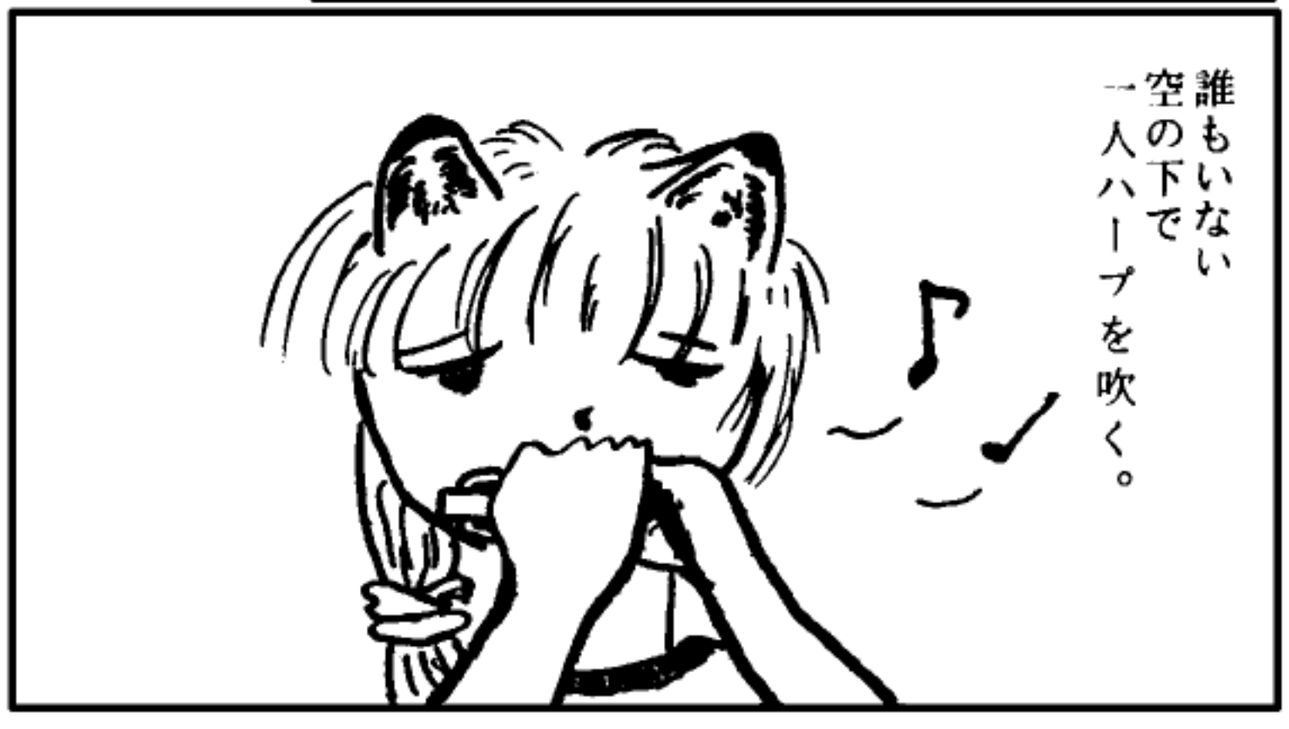
地の上　空の下　ぼくのなか

～　Yetiの住むところ　～

くらげ☆うみうし







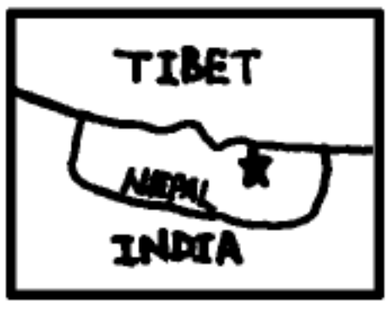
イエティ

日本語に訳せば雪男ですが、何かその響きにロマンの匂いを感じるのは私だけでしょうか。

ネパールの山奥でひっそりと暮らしていると言われるイエティもその正体については猿の一種だとか、大型獣だとか、たんなる幻説などいろいろ。一部では古代人の生き残りでは？と言われているようです。

ネパールの山に入ってゆくと険しい山の間を走る川と小さな平地、すぐ奥には雪山とイエティ伝説にうってつけのイロイエティシャンが広がります。食べるものでしょうえども何かしらきり雪の中では生きられまるっせん。そう考えるとトレッカーがよく訪ねる雪線あたりというのはイエティにも都合が良さそうですね。特にランタン谷のトレッキングコースはアンナプルナやソルクーンブに比べて人も少ないので何となくイエティに出会えるような・・・。

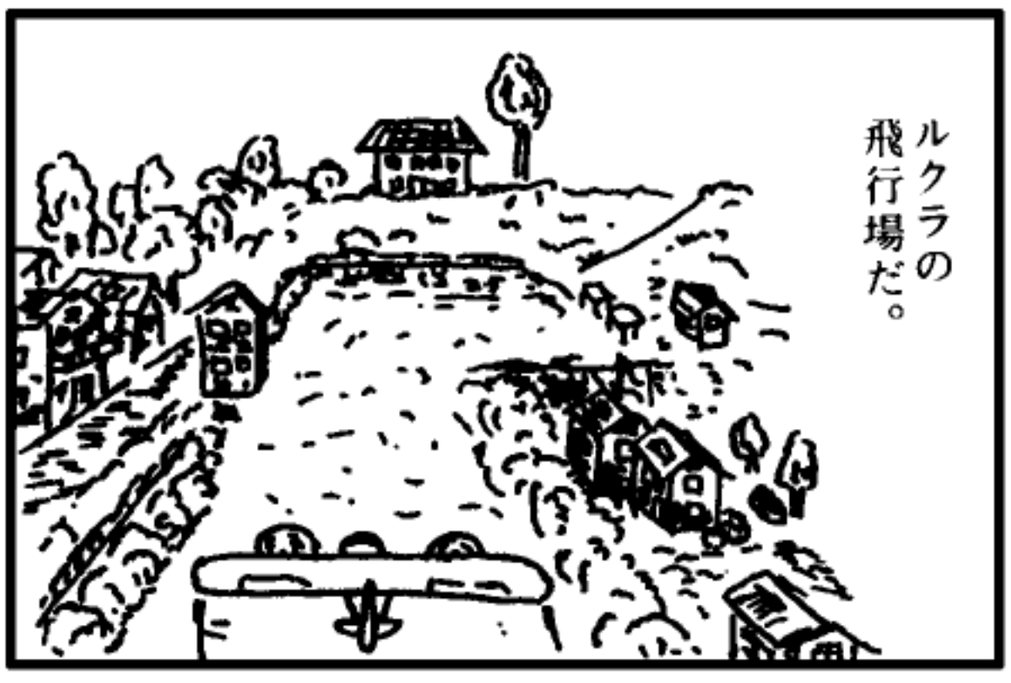
ちょっとした休憩しているときにそっとどこかの木陰か山の上から覗かれているかも知れません。まさかと思っても、「もしかしたら」と思わせるネパールのトレッキングです。



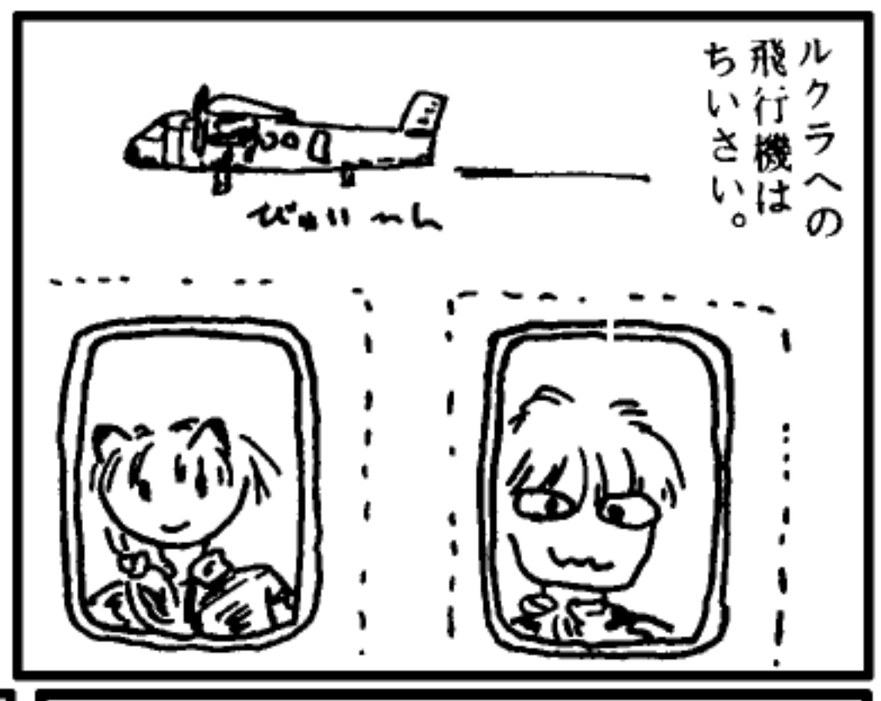
地の上　空の下　ぼくのなか

～　こんな飛行場　～

くらげ☆うみうし

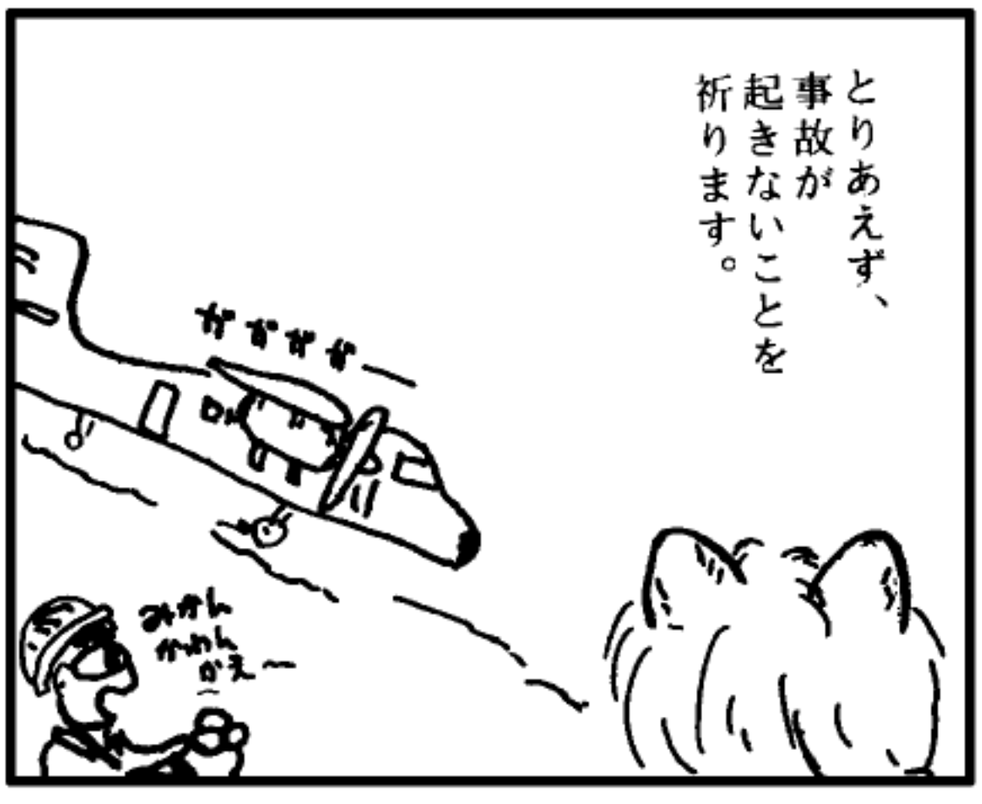


しかし、驚くのはむしろ

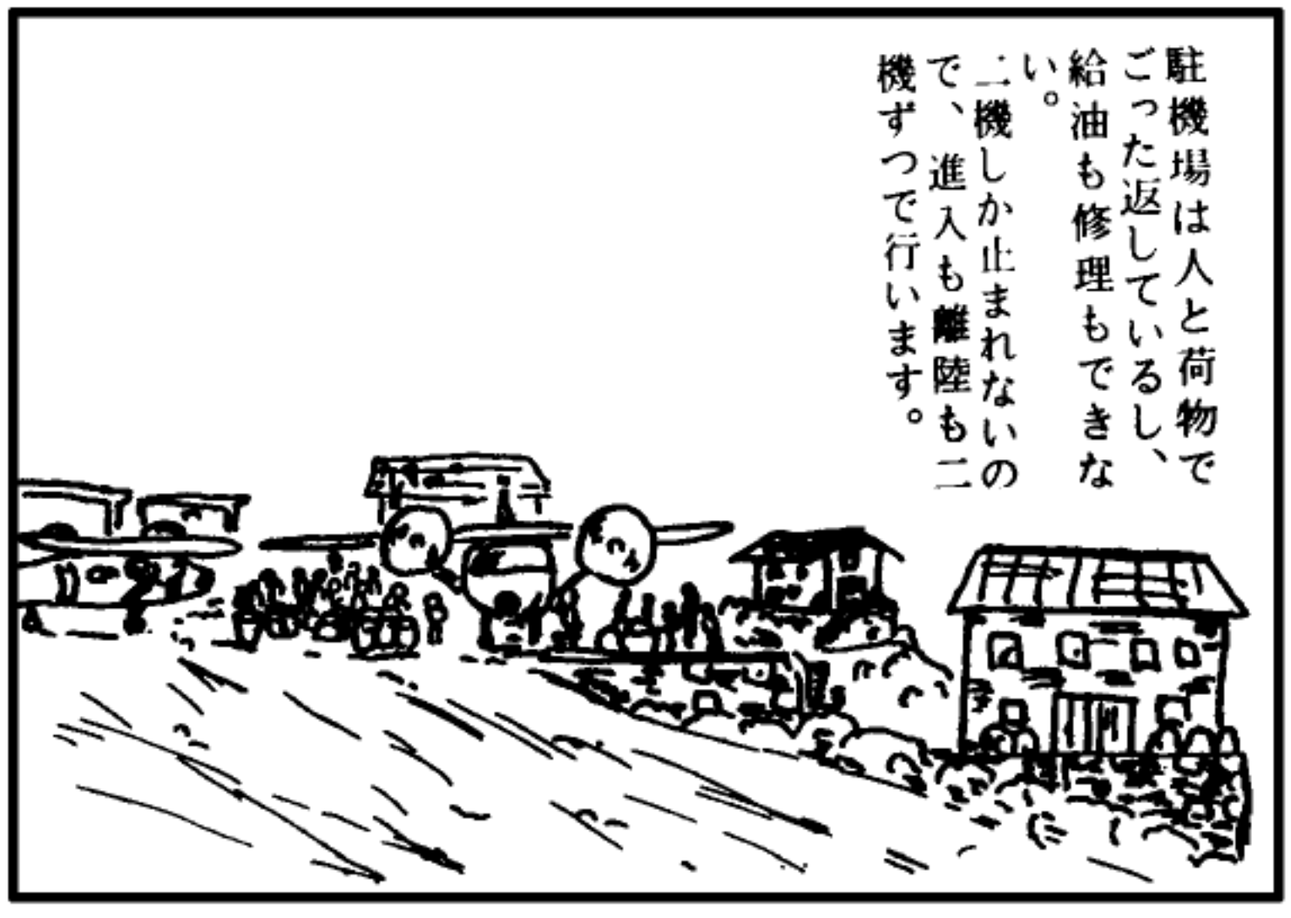


しかし、ここではその常識すら無いのです。

普通飛行機は風上に向かってすすみます。



とりあえず、事故が起きないことを祈ります。



駐機場は人と荷物でごった返しているし、給油も修理もできない。二機しか止まれないので、進入も離陸も二機ずつで行います。

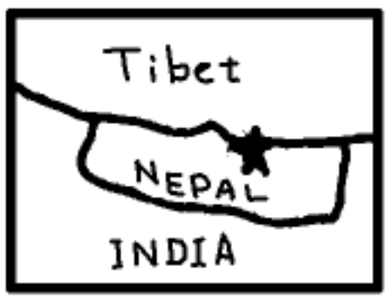
ルクラの飛行場

チョモランマ（エベレスト）などの望めるソル・クーンブ地域へのトレッキングはカトマンズから飛行機に乗ってルクラを起点にするのが一般的です。

日本で大きな飛行機に乗り慣れている僕らにとってルクラに行く飛行機は驚くほど小さいものです。大体一七人乗りくらいです。機内では圧力変化による耳の不快感を防ぐため、あるいはエンジン音の防音のため脱脂綿が配られましたぼくはつい綿飴のようにもりでぱくり。アテンドの人に笑われました。

しかし、ルクラの飛行場はこの飛行機どころの驚きようではなく、ぼくの飛行場の概念をうち破るものでした。

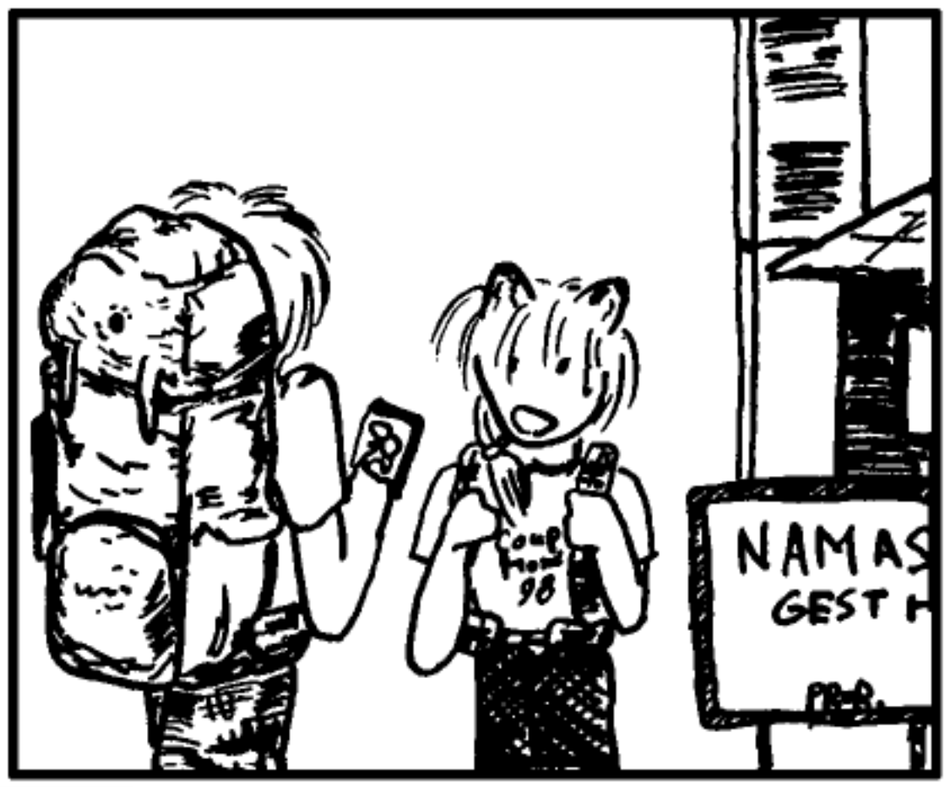
滑走路が舗装されていないのはまだしも、どん詰まりで、坂になっている滑走路なんて常識では考えられません。普通飛行機の離発着は風向きによって変わるので、進行方向が変えられるようになっているものです。しかし、ルクラでは入ってきてUターンして逆向きに出てきて行くスタイルなのです。崖っぷちから飛び出す飛行機はまるで空母から飛ぶ戦闘機のようです。事故が起きなければいいのですけどね。

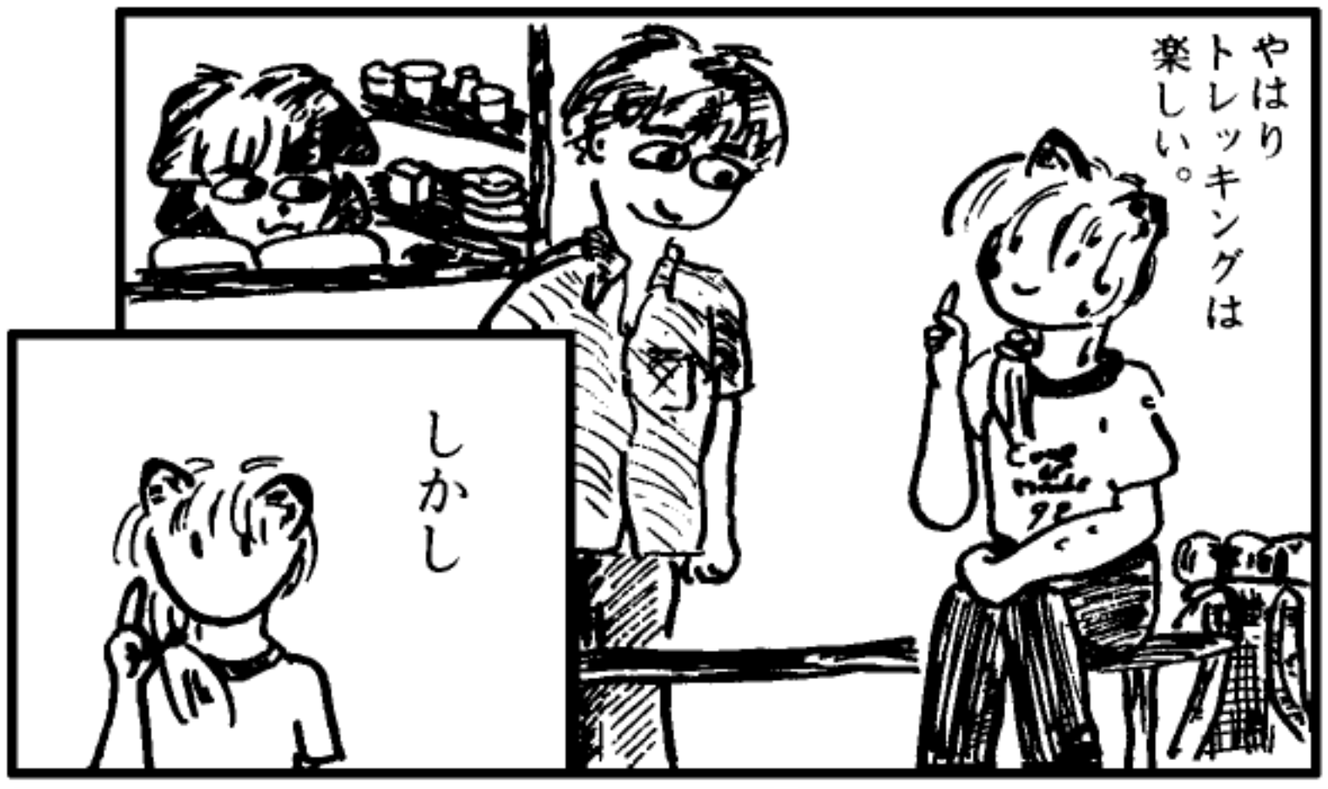


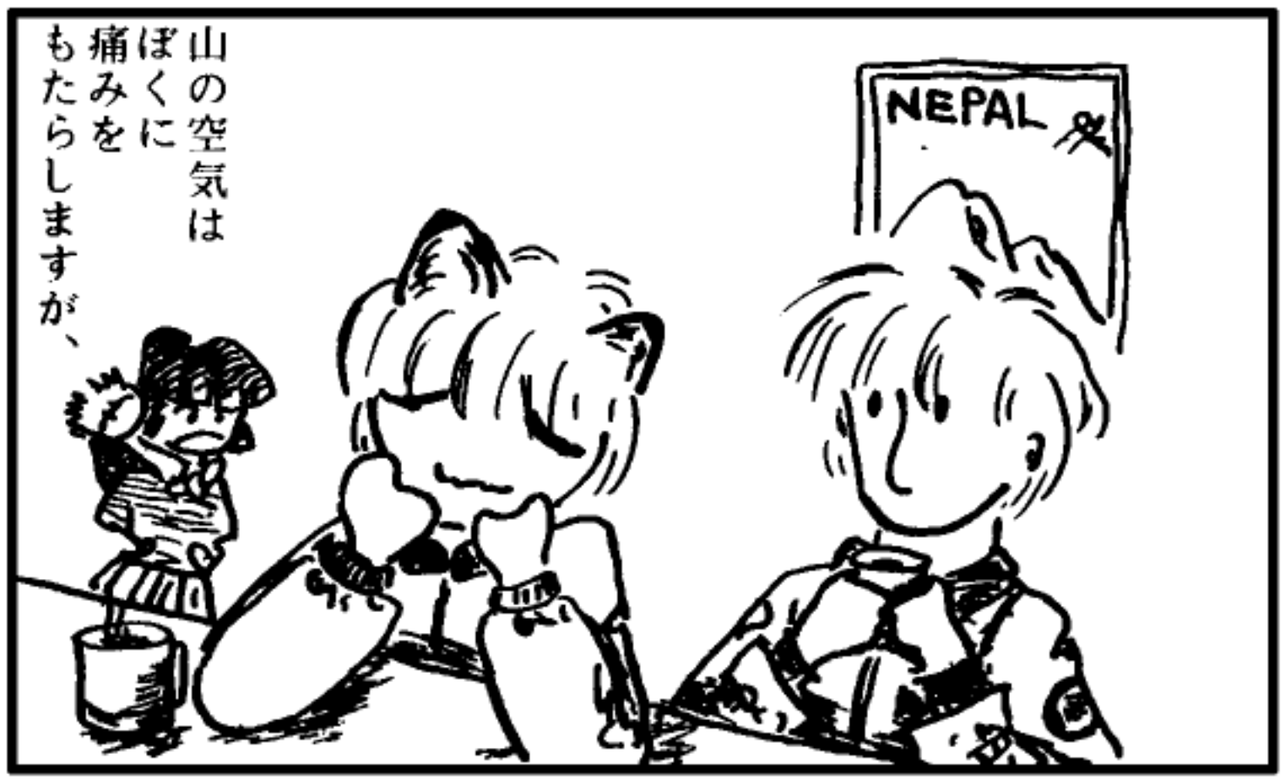
地の上　空の下　ぼくのなか

～　山の空気は　～

くらげ☆うみうし





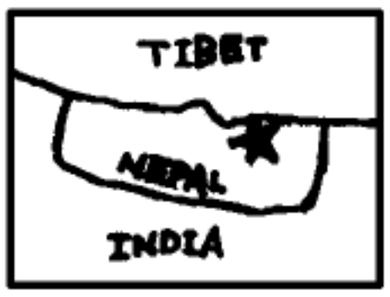


高山病

耳にすることはあっても実際にどういう病気なのかはあまり知られていないですね。簡単に言えば酸欠ないわけです。山など空気の薄い場所で酸欠が原因で出る症状をまとめて「高山病」と呼びます。同じ高度でもたりなかったり、同じ人でもその時のコンディションで状態がずいぶんと変わってきます。ぼくはかなり高山病が出やすい体質らしく、高山病のこころへ行くにはそれなりの覚悟と計画が必要です。

症状は一般に軽い頭痛から始まって吐き気・めまい・食欲不振・嘔吐などに進むようです。原因は空気が薄いことなので下山すれば直るのですが、どうも一部「根性」の入りすぎた人が、吐きながら登ったり来たりするようですが、高山病は悪化すると肺に水がたまり、死に至ることもあるかなり恐ろしい病気であることも忘れてはいけません。

でも、人間の体はよくできていて、少しずつならしながら登っていけば、三千メートルで頭痛の始まるぼくにも五千メーター以上登ることができます。軽い頭痛くらいなら、高度を上げないように軽い散歩していると次の日には体が慣れて症状が収まるようです。



地の上　空の下　ぼくのなか

～　歩く旅　～

くらげ☆うみうし

決して
特別なことでは
ないと思います。

トレッキング

旅行者にとってはレクリエーションのトレッキングも現地の人にとっては車が無いから歩いているだけの生活手段です。でも、ネパールで一番の楽しみはトレッキングです。のんびり歩きながら、ヒマラヤやその麓の街を訪ね歩きます。登山ではないので、もっと気楽に楽しめます。

トレッキングとは言っても時には五千メートル以上の場所もあり、辛いときもあります。しかも、何日も（場合によっては一月近く）歩き続けます。こんな話をすると大変な事のように思われますが、旅行者の身分なら気楽なものです。場合によってはポーターも雇えますし、その人そのままの人に合ったトレッキングが楽しめます。なにろ、日本だって、いや世界中でたった百年前までは同じ様なことをしていたのです。ちょっと昔を振り返ってみるのはきっとものんびりいいことなのです。

地の上　空の下　ぼくのなか

～ Snowman ～

くらげ☆うみうし

日本食レストランの質が高いのが救いだと思っている。

でも、もっとくつろげる場所。

編集長には悪いのだが、

ぼくはカドマンズがキライだ。

なつかしい音楽

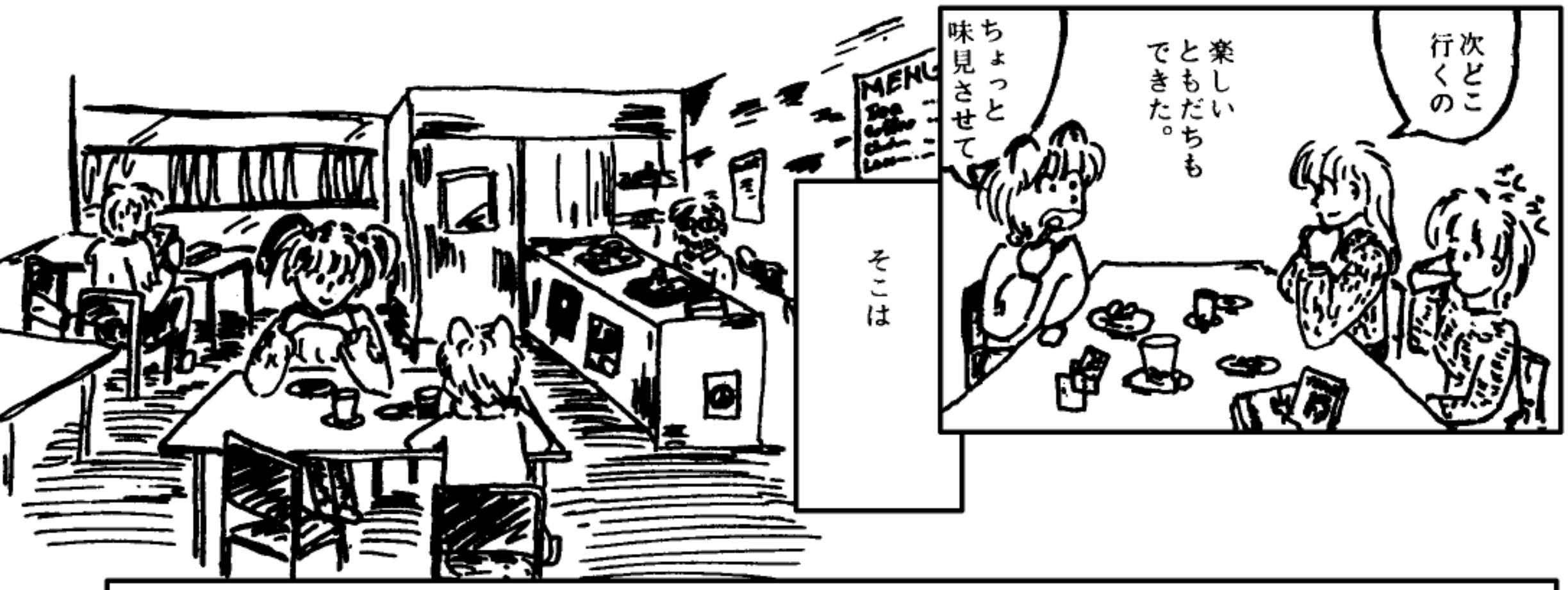
奇抜な絵

おいしいケーキ

渋い壁

お茶の味は

イマイチ



スノーマン

カトマンズは空気が汚くて、人もすれていて、山も見えないし、くらげとしてはあまり好きな場所ではありません。しかし、日本食レストランは充実しています。インド亜大陸にはあまり日本食レストランはありませんが、カトマンズに行けば満足できます。

それとぼくがお気に入りだったのがスノーマンというケーキ屋。文明に毒されていない世界は長居すると飽きて、素朴なぼくにとって居心地がいいのです。そこでちょっと休憩しようと思ったのが亜大陸に行くとどこにでもあるインド料理の生活に戻れるかもしれない場所。ノーマンズ落ちつく限りなくて喫茶店自体がほとんどなくなるまで。スノーマンは旅行者の集まる都会なのです。

別にらとでいうの店思いはあります。最新の流行のとの店ではジッ

せんが代わりにカルミュージ

イクリンウィーキ、トでは

メリカドスケーキ、風景画な

タ一リンケーキ、ポクスア

る内装。日本ロ、ア

時代遅れ。はなくて、ったの

し時代遅れ。はなくて、ったのちょうが、旅途中に寄るのはくうど、旅の雰囲気なのがいつもの毎日カトマンズに滞在していました。

ちょっぽくはいつまでも通って